

平成 2 8 年 7 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859）

シカが増えれば、安全運転

青梅街道（国道 411 号）は、奥多摩湖を過ぎると、街灯も少ない多摩川上流域の山間部を辿り、柳沢峠を越え甲府盆地側の裂石へ下ります。この区間は、もう大分前からシカ（ニホンジカ）が増えているとされる地域です。今年の春、深夜に車で柳沢峠から丹波山村方面に下る途中、道路脇に雌のシカが一頭、倒れて死んでいるのを見つけました。状況から、車と衝突したことによる事故死のようでした。

私も以前、柳沢峠の甲府盆地側ですが、青梅街道でシカと衝突したことがあります。深夜過ぎ、道路脇の藪の影から、車の直前にシカが飛び出し、ブレーキもハンドル操作も間に合わず、道路の反対側にまでシカをはね飛ばしてしまいました。シカは暫くすると立ち上がり、ヨロヨロと暗い草藪の中へ立ち去りましたが、かなりのダメージのようでした。車は軽自動車のワンボックスで、前部がへこみ、前部全面にシカの毛が付着していましたが、走行に支障はありませんでした。後日、改めて車の任意保険の説明書を読み直し、このような場合の保険の扱いを再確認することになりました。

多摩川上流域の青梅街道やそこから派生する一ノ瀬林道などを夜間、車で走るとシカの数が多いことを実感できます。車が接近しても道路の真ん中で全く動かない、あるいは物陰から急に飛び出すなどは当たり前で、事故には至らなくても、ニアミスは珍しくありません。シカとの直接的な接触はなくても、シカを回避する操作に伴う事故、シカによる山側からの落石なども想定されます。地元の人からも、夜の車道沿いのシカは怖い、という話を聞きました。今後もシカの数が増えれば、シカとの事故も増えそうに思います。予防策としては、安全速度の維持、ハイビームを使用し早めにシカを見つけるなど、夜間走行の基本を守るのが第一のようです。

多摩川上流域では、シカの被食圧（食害）が主因と思われる環境の変化が進行中です。雲取山、大菩薩峠等の亜高山性お花畑の消失と表土の流出、森林内の下層植生の消失、広範囲にわたる樹木の立ち枯れ等々の現状を見ると、人がシカの生息数をコントロールするのは止むを得ない状況だと思っています。同時に、シカ以上に自然環境を変えてきた人が、それを行うのには、自分のことを棚に上げた多少の後ろめたさも感ぜざるを得ません。

困った存在になりつつあるシカとの衝突事故回避は、シカの保護というよりも、運転する自分自身や車の安全確保という性格も強いように思います。人が人に対して配慮する交通事故防止とは、温度差があるようにも感じます。シカを目線で、夜の山道を運転することは、駆除されるかもしれないシカに対しての、せめてもの罪滅ぼしになるかもしれません。こうした運転は、人に対しての安全運転にも繋がりそうに思います。

(文責 櫻岡 幸治)